

知的障がい者フットサル日本代表候補 2026 年 7 月合宿報告

報告者：知的障がい者サッカー連盟フットサル委員会 日本代表監督 戸西寿和

1. 概要

【期間】 2026 年 7 月 18 日（土）～ 20 日（祝月）

【場所】 トレーニング：ミズノフットサルプラザ味の素スタジアム

宿泊：公益社団法人九段 尽性園 哲明寮

2. コンセプト

選手のテーマ

- ・フットサルの理解（全員攻撃、全員守備、ハードワーク）
- ・守備戦術の実践（マンツーマン DF、前プレ、撤退、GK との連携）
- ・攻撃戦術の実践（3-1 システム、ピヴォアタック、スペースアタック、カウンター、KI、CK）

指導者のテーマ

- ・選手の把握、評価
- ・攻守における戦術の評価と課題
- ・強化と育成



3. スケジュール

期日	午前	午後	夜
7 月 18 日(土)	集合	トレーニング	ミーティング
7 月 19 日(日)	トレーニング	トレーニング	ミーティング
7 月 20 日(祝月)	トレーニングマッチ	ミーティング／解散	

4. 選手／スタッフ

選手：19 名、スタッフ：7 名

詳細は最終頁に記載

5. 総括

今年度開催が予定されていた「2026 Virtus Asia-Oceania Games」は、残念ながらフットサル競技の実施が見送られることとなりました。しかし、来年度開催予定の「2027 Virtus Global Games」に向け、新たなスタートを切るべく今回の日本代表候補合宿を実施しました。昨年のスペイン世界大会以来、約半年ぶりとなる代表活動には、初招集選手 6 名を含む 19 名が参加しました。

オープニングミーティングでは、「日本代表候補として選ばれた責任と誇りを持つこと」、そして「世界で勝つための新たな競争の始まり」であることを全員で確認しました。昨年度の実績は過去のものとし、全員がポジションを争う意識で 3 日間に臨みました。

初日のトレーニングでは、これまで積み上げてきたチームコンセプトの再確認を中心に行いました。攻撃では、基本システムからのピヴォアタックとスペースアタックを軸に、4 人が運動しながら数的優位を生み出すこと、状況に応じたポジショニングやタイミングの質を高めることをテーマとしました。また、キックインやクリアランスなどのリスタートについても、攻撃の狙いを整理しながら確認を行いました。守備では、マンツーマンディフェンスをベースに、前線からのプレッシングとハーフコートディフェンスの連携を確認しました。特に、ピヴォ当てされた後の守備の優先順位や、相手選手との距離感、どこに戻るのかを細かく共有しました。継続して活動している選手は理解をさらに深め、初招集選手も積極的にコミュニケーションを取りながら短時間で適応しようとする姿勢が見られました。

2 日目午前は、YOYO テストからスタートしました。昨年の世界大会では 6 日間で 5 試合を戦う過密日程であり、世界で勝ち抜くためには技術や戦術だけでなく、高い走力と回復力が必要不可欠です。今回も日頃から高い強度でトレーニングを積んでいる選手とそうでない選手との差は見られましたが、全体として記録は着実に向上しており、代表選手としての意識の高まりを感じる結果となりました。その後は、世界大会で課題となったハーフコートディフェンスを重点的にトレーニングしました。ボールウォッチャーになることが多いため、自分のマークについていくことと、ピヴォ当てされないパスラインを意識したポジショニングを、実戦を想定しながら改善に取り組みました。午後はゲーム形式を中心に実施し、翌日のトレーニングマッチを想定した実践的な内容となりました。攻守の切り替えの速さ、ボールを失った直後の守備への移行、ボールを奪った後の素早い攻撃など、ゲームモデルを意識したプレーが見られました。疲労が蓄積する中でも、チームコンセプトである「ハードワーク」を最後まで体現しようとする姿勢は非常に評価できました。

最終日は、東京都リーグ 3 部所属の東京ヴェルディフットサルチームとのトレーニングマッチ（30 分×3 本）を実施しました。結果は 0-6、0-2、0-2 でした。1 本目は相手のスピードやプレー強度への対応が遅れ、



自陣でのビルドアップ時のミスや判断の遅れから失点を重ねました。また、コーナーキックやキックイン時の守備では、相手の立ち位置や狙いを共有できず、チャレンジの判断が曖昧になったことも失点につながりました。攻撃では、ピヴォ当てやカウンターからゴール前まで運ぶ場面は作れたものの、シュート精度や最後の判断に課題が残り、得点には結びつきませんでした。2 本目以降はハーフディフェンスへ切り替え、守備ブロックをコンパクトに保つことで失点を抑えることができました。しかし、個人技術やモビリティに優れた相手に対して 1 対 1 で突破される場面

や、局面で後手に回る場面も多く、対人守備の強度や身体能力、予測を含めた守備技術の向上が必要であることを再認識しました。また、暑熱環境の中で戦い抜く運動量やプレースピード、攻守の切り替え、ゲーム中のコミュニケーションについても課題が明確になりました。一方で、初招集選手が積極的にチャレンジし、それぞれの持ち味を発揮したこと、全 19 名が試合経験を積み、代表レベルを肌で感じられたことは大きな成果でした。試合後には PK 戦も実施し、プレッシャー下での技術とメンタル面の確認も行いました。

今回の合宿を通して、技術・戦術・フィジカル・メンタルのすべてにおいて、世界基準との距離を改めて確認することができました。同時に、チーム全体の競争レベルはこれまでで最も高く、誰一人としてポジションが保証されていないことを選手自身も強く感じた合宿になったと思います。

日本代表の目標は、2027 Virtus Global Games で世界一になることです。その目標を達成するためには、代表活動だけではなく、所属クラブや地域での日々の積み重ねが何より重要になります。技術・戦術の向上はもちろん、フィジカル、判断力、コミュニケーション能力、そして「世界一になる」という覚悟を持って日常を変えていかなければなりません。最後のミーティングでは、「現状維持は停滞もしくは後退」という話をしました。今合宿で得た課題と成果を持ち帰り、それぞれが自ら考え、行動し、次の合宿ではさらに成長した姿で再会できることを期待しています。

最後になりますが、本合宿の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りましたアディダス関係者の皆様、ミズノフットサルプラザ味の素スタジアムの皆様、公益社団法人九段盡性園哲明寮の皆様、東京ヴェルディフットサルチームの皆様、選手所属チームの関係者の皆様、そして保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

皆様のご支援があるからこそ、日本代表は世界への挑戦を続けることができます。今後とも温かいご声援とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026 年 7 月合宿 招集参加選手・スタッフ一覧

名前 (漢字)	名前 (ふりがな)	所属都道府県	ポジション	年齢
野崎 将智	のざき まさと	東京	ゴレイロ	31
幡野 湊	はたの かいり	東京	ゴレイロ	18
徳丸 舜	とくまる しゅん	熊本	フィクソ	31
福田 翔和	ふくだ しょうわ	東京	フィクソ/アラ	20
越智 羽久澄	おち はくと	愛媛	アラ	23
吉川 圭祐	きっかわ けいすけ	東京	ピヴォ	28
大久保 史弥	おおくぼ ふみや	栃木	ピヴォ/アラ	19
原 勇人	はら ゆうと	東京	アラ	22

宮野 絢	みやの じゅん	大阪	アラ	20
齊藤 光汰	さいとう こうた	神奈川	アラ	21
青沼 悠土	あおぬま ゆうと	東京	ゴレイロ	35
小林 佑平	こばやし ゆうへい	神奈川	ピヴォ	27
岡田 秀太	おかだ しゅうた	神奈川	アラ	23
池田 翔吾	いけだ しょうご	千葉	アラ	25
瀬戸 厳樹	せと げんき	兵庫	アラ	28
四ツ嶋 幸之助	よつしま こうのすけ	富山	ピヴォ/アラ	18
幾島 直人	いくしま なおと	兵庫	フィクソ	17
細田 虎之介	ほそだ とらのすけ	熊本	フィクソ	17
坪井 晴暉	つばい はるき	静岡	ゴレイロ	20
戸西 寿和	とにし ひさかず	大阪	監督	49
本橋 勇太郎	もとはし ゆうたろう	千葉	コーチ	33
鴨下 周平	かもした しゅうへい	東京	コーチ	39
小林 勇樹	こばやし ゆうき	神奈川	GK コーチ	45
川口 和貴	かわぐち かずき	東京	GK コーチ	40
島田 靖丈	しまだ やすたけ	千葉	トレーナー	42
内山 彰洋	うちやま あきひろ	東京	主務	40





